

## 11. JAあわじ島の自己改革の取り組み状況

### ○JAあわじ島の自己改革の取り組みについて

政府は、農協改革集中推進期間を令和元年5月までとし、准組合員の事業利用規制や信用事業の譲渡も含めた改革の実施状況についてフォローアップを進めています。

これに対し、JAグループは、持続的な地域農業の維持・振興とくらしやすい地域社会の実現に向けて、総合事業の展開により、「農業者の所得増大」、「農業生産の拡大」、「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組んでいます。

JAあわじ島がこれまで取り組んできた自己改革の成果と課題は次のとおりです。

### ○自己改革の成果と課題について

#### 【農業者の所得増大・農業生産の拡大に向けた取り組み】

##### 【目標】

- 農産物生産指導や販売先の開拓によって農産物販売高を拡大します。  
販売品販売高 平成30年度実績 104億円 ⇒ 令和元年度目標 122億円
- 農業資材の高騰化対策に向けて、商品管理見直し等を進めます。  
購買品供給高 平成30年度実績 58億 ⇒ 令和元年度目標 58億

取組み	具体的な内容	成果と課題
販売力強化による農業者の収入増加	市場販売から直接販売など販路を拡大	➢ はくさい契約取引、キャベツ契約取引の実施、レタス無包装出荷、たまねぎ鉄コン出荷の販路拡大に全農とともに取り組みました。
	たまねぎ出荷体系の取組み  ・たまねぎ根切葉切機	➢ 根付葉付たまねぎの乾燥調製、根葉切処理、撰果処理を行う機械化一貫体系の構築に取り組み、組合員の負担軽減を図りました。平成29年度より当JA北阿万センターが本格稼働しています。 〔北阿万センター鉄コンテナ取扱い基数〕 平成29年度 3,778基 ⇒ 平成30年度 5,829基
	新たな共同撰果品目の導入	➢ 平成29年度よりブロッコリーの共同撰果を実施しています。冷蔵貯蔵による出荷調整を行うとともに容器を発砲スチロールに変え氷詰めることにより、有利販売に繋がりました。
購買事業等の新たな取組みによる農業者のコスト低減	生産資材等の仕入方法	➢ 農協系統外を含めて入札を行うことで最低価格にて供給しており、常に安価供給の保持に努めました。 特に肥料については、平成29年度より開始している7～9月予約分に対する配送料の無償化を平成30年度も継続し、農家のコスト低減に寄与しました。
	農耕用軽油の予約特価販売	➢ 平成30年度は年2回実施し、農業支援に力を注ぎました。12月から1月には「灯油あったかキャンペーン」を実施し、多くの皆さまにご利用いただきました。 〔平成30年度燃料供給高〕 1,382百万円(計画対比105.5%)

取組み	具体的な内容	成果と課題
農業所得アッププランの取組み	貸出金における各種資金ニーズへの対応	➤ 平成 29 年度より行っている農業近代化資金・アグリマイティ資金の利子・保証料助成を平成 30 年度も継続し、農業機械等の購入を支援することで、農家負担の軽減を図りました。
	たまねぎべと病防止対策	➤ 平成 28 年産たまねぎに多発したべと病の防止対策として、平成 29 年度はバスアミド他計 3 農薬に対し、平成 30 年度はバスアミド微粒剤に対して薬剤費の助成を実施しました。 〔バスアミド微粒剤への助成額〕 平成 29 年度 1,747 件 助成金 8,175 千円 平成 30 年度 1,723 件 助成金 7,926 千円
	たまねぎ増反助成事業の実施	➤ 府県参No.1 を目指して、「ターザン」裸種子購入に助成を実施しました。 〔ターザン購入への助成〕 平成 30 年度 333 件 助成金 3,163 千円

### 【地域の活性化に向けた取組み】

取組み	具体的な内容	成果と課題
地域ふれあい活動の活性化	食農教育活動の実施 	➤ 管内小学校を対象に様々な食農教育を実施し、食の大切さを伝える活動を行いました。 〔平成 29 年度実績〕 田植え体験:3 回(参加者 111 人)、稲刈り体験:5 回(参加者 161 人)、野菜定植体験:1 回(参加者 39 人)、野菜収穫体験:5 回(参加者 115 人)、料理教室:4 回(参加者 98 人)、直売所販売体験:2 回(参加者 76 人)
	・たまねぎの収穫体験	〔平成 30 年度実績〕 みかん管理:1 回(参加者 17 人)、田植え体験:4 回(参加者 155 人)、稲刈り体験:3 回(参加者 115 人)、玉葱定植体験:1 回(参加者 7 人)、玉葱収穫体験:7 回(参加者 266 人)、調理体験:3 回(参加者 83 人)、バケツ稲栽培:2 回(参加者 73 人)、出前授業:3 回(参加者 71 人)

### 【その他の取組み】

取組み	具体的な内容	成果と課題
執行体制、経営経営基盤の強化	店舗機能の再構築、経費削減	➤ 平成 28 年度従来の 16 店舗中 6 店舗の信用・共済事業を再編し、経営基盤を強化しました。
	執行体制の検討	➤ 平成 30 年度の総代会において、役員定数をそれまでの 34 名から認定農業者・実践的能力者を中心とする 22 名へ削減することにつき承認を受けました。
	組織再編等協議会の立ち上げ	➤ 組織・施設の再編を検討する役員 8 名による協議会を平成 30 年 9 月に立ち上げました。平成 30 年度は 4 回開催し、再編に関する協議を進めました。

### 【農業振興・地域貢献に関する支援・活動一覧】

支援事業名	支援内容	28年度実績	29年度実績	30年度実績
農業活性化支援事業	平成28年産たまねぎに多発したべと病対策として、薬剤費の購入を助成 〔対象：バスアミド、リドミル、ザンプロ〕 (上限薬剤費の40%以内)	-種類 -件 -千円	3種類 5,047件 19,995千円	1種類 1,723件 7,926千円
農業振興支援事業	管内の産地・拡大、農業振興、担い手育成を図るため組合員を対象に実施 ①農協部会組織共同利用支援事業 (上限事業費の80%以内で200万円以内) ②南あわじ型野菜産地維持拡大事業 (上限事業費の30%以内で100万円以内、導入機械・設備の更新については対象外)	①②計 6件 5,981千円	①②計 10件 7,357千円	①②計 9件 5,687千円
JAバンク農業支援基金	農業活性化と農業所得の向上に向け活用 (部会等のブームプレイヤー導入分として、上限事業費の30%)	-件 -千円	6件 5,556千円	-件 -千円
JA共済連「地域・農業活性化積立金」	地域農業の活性化のために活用 (部会等のブームプレイヤー導入分として、上限事業費の30%)	7件 6,542千円	-件 -千円	-件 -千円
組合員組織活動	年金友の会親睦旅行助成	480名参加 5,235千円	379名参加 4,034千円	425名参加 5,548千円
組合員奨励施策	土づくり良質堆肥助成	854件 6,002千円	865件 6,988千円	830件 6,574千円

### ○今後の自己改革の取り組みについて

『JAあわじ島“ビジョン2022”「10年後にめざすJAの姿」』に掲げる取り組みについては、中期経営計画および単年度事業計画のなかで重点的に進捗管理を行い、着実に実践していきます。また経営理念である「わたしたちは、人と自然にやさしい農業、信頼のおける生産農協、安全・安心な食と農とくらしの確立、地域振興・共生とゆとりの創造」に基づき、経営方針である「組合員とともにJAづくりを、あらゆる面で実践します」「JAの事業・活動を通じ、農家所得の向上を目指します」を指針として、これからも自己改革の成果と課題を経営計画に反映させていきます。

また組合員のみなさまのご期待に沿えるようJAあわじ島では『農産物の再生産を保障する体系の確立』『農業者の働き方改革』の実現に取り組んでまいりますので今後ともご支援、お力添えをお願い申し上げます。